



発行所
常磐南小学校
電話 46-2005
F A X 46-2048
— 第 53 号 —
2025.1.23

書き初め会

令和七年一月八日



夢を語ろう

校長 林 幸康

あけましておめでとうございます。今年は十二支の中で「巳年」にあたります。巳年は、これまで努力してきたことが実を結び始める年だと言われています。また、蛇は脱皮をすることから、新しいことに挑戦したり、変化を前向きに受け止めたりできる年になると言われます。よい一年になるよう、職員一同努力していきたいと思えます。

さて、日本の伝統的な行事である「書き初め」は、平安時代の宮中における「吉書の奏（きつしよのそう）」という行事が起源とされています。「吉書の奏」は、改元・代替わり・年始など、ものごとがあらたまった節目に、天皇に文書を奏上するというものでした。この「吉書の奏」は鎌倉・室町幕府にも引き継がれ、「吉書始め」という新年の儀礼行事として定着します。江戸時代になると、この「吉書始め」が庶民の間にも「おめでたい新年に書道（習字）をする」という行事となって広まりました。現代の「書き初め」には、おめでたい言葉や詩歌、または今年一年の目標や抱負を文字で表現することで、自分自身の決意を新たにするという意味があります。

今年度、六年生の書き初めの課題は「伝統を守る」から「夢を語ろう」に変更されました。「伝統を守る」は、多くの伝統を受け継ぐ常磐南小学校の六年生にとってふさわしいものでした。一方で、今年の「夢を語ろう」には、自分の夢を実現するための第一歩を踏み出そうという思いが込められているように感じます。六年生は、この言葉をどう受け止めてくれたのでしょうか。書き初め会当日、教室をのぞいてみると、凜とした雰囲気の中で、集中して取り組む六年生の姿がありました。一筆一筆に気持ちを込めるその姿には、残りの小学校生活と新しい中学校生活に向けての決意が感じられました。

常磐南小学校での生活も残り四十日を切った六年生。巳年にふさわしく、これまで続けてきた努力を自信にして、前向きに歩んでいってくださることを心から願っています。

五年 社会見学



【三菱自動車 岡崎製作所見学】

楽しかった社会見学

五年

三菱自動車に見学へ行き、たくさんのお見せがありました。自動車を作るのに約3万個のパーツが使われていたり、プレスや溶接などのたくさんのお仕事がありました。また、パーツの形を作るために、4500トンの力でプレスできる機械がありました。これだけ強い力で鉄を曲げているのに、どうして傷がつかないのだろうと疑問に思いました。

知らないことがたくさんあったので、もっとくわしく自動車作りについて調べたいです。

「向日葵のひざし」交流会

よろこんでもらえた交流会

四年

わたしは、向日葵のひざし交流会で、クリスマスカードをわたしました。クリスマスカードは、向日葵のひざしの人たちによるこんでほしいという思いで一生涯懸命かきました。そして、クリスマスカードをわたしたときに、泣いてよろこんでくれた人もいたので、うれしかったです。



【ダンスクラブの発表】

楽しかった交流会

五年

ぼくは、向日葵のひざし交流会で、雅楽の笙の楽器を演奏しました。たくさんのお友達がいて緊張したけれど、これまでの練習の成果を發揮して、最後までしっかりと演奏できたのでよかったです。全ての発表が終わった後、施設の方たちと写真を撮りました。みなさんとても喜んでくれたので、すごくうれしくなりました。



【クリスマスカードのプレゼント】

喜んでくれてうれしかった交流会

六年

十二月十六日に向日葵のひざしを訪問しました。この日までに、プロダクションクラブとイラストクラブのみんなが協力して、おじいさん、おばあさん、職員の方々にクリスマスカードを作りました。交流会の中で、「メリークリスマス。」と言って、おばあさんにカードを渡しました。おばあさんは、笑顔になりました。喜んでくれました。うれしかったです。長生きしてほしいなと思いました。

喜んででもらえた

六年

私は向日葵のひざしへ行き、入居者の方や職員の方の前で、ダンスクラブの六年生メンバー八人で、「チグハグ」という曲を緊張しながらおどりました。ダンスが終わった後、みなさんの表情を見ると、とても喜んでくださっているようでした。感謝の言葉もいただき、私たちもとてもうれしくなりました。この気持ちを胸に、次はときなん祭に向けて、ダンスの練習をがんばります。

三年 バードウォッチング

うれしかったバードウォッチング

三年

一月十五日に二回目のバードウォッチングをしました。トビやホオジロ、ケリなどの鳥をかんさつすることができてうれしかったです。バードウォッチングのあとの〇〇先生のお話では、カッコウという鳥が、自分のたまごをちがう鳥の巣において、育ててもらおうことをはじめて知って、こわいなと思いました。

春のバードウォッチングのときよりも野鳥についてくわしくなり、野鳥のことが好きになりました。また、バードウォッチングをしたいです。



【立石先生とバードウォッチングをする3年生】

校内書き初め会

金しよを 目ざしたよ

一年

かきぞめかいで、ぜったいに金しよをとるぞとおもいながらかきました。みんなは三まいかいていたけど、ぼくは二まいしかかけません。一字をゆっくりかいたからです。ゆつくり文字をかいたからじしんがありました。でも、金しよがとれるかしんばいでした。つぎの日、ろうかはってあるぼくの字に金が見が、はってあってすぐうれしかったです。



【初めての書き初め会】

たくさんれんしゅうした書きぞめ

二年

ぼくは、字を書くことがきらいです。だから、書きぞめ会にむけて、冬休みにたくさんれんしゅうをしました。本ばんは、まちがえないように書くことがむずかしかったです。でも、さい後まできれいに書くことができました。字を書くことが少し好きに

なりました。来年は、もっと上手な字を書きたいです。

楽しく書けた書き初め会

三年

ぼくは、書き初め会に向けてたくさん練習をしました。学校の授業でも、習っている習字教室でも、きれいな字が書けて絶対調だったので、自信がありました。

書き初め会本番は、最初すぐきんちようしました。だけど、だんだん書いていくうちにきんちようがとけて、楽しく書くことができました。金賞がとれたので、うれしかったです。

初めてとった銀賞

四年

わたしは、毎年、冬休みに祖父とたくさん字を書く練習しています。けれど、書き初め会で一度も賞をとったことがありませんでした。

そして本番、祖父に教えてもらったことを守って真けんに書いたら、銀賞をとることができました。初めて銀賞をとることができたので、すごくすぐうれしかったです。来年も祖父と練習をがんばります。

来年こそは金賞をとるぞ！

五年

ぼくはこれまでに書き初め会で銀賞を二回とっています。習い事で習字を習っていて自信はあるけれど、なかなか金賞がとれません。今年は、

「強い決意」という文字です。書くときに文字を太くしたり中心に気を付けたりました。本番は、すごく緊張してしまっているので、練習から本番と違って書きました。来年こそは、金賞がとれるようにがんばりたいです。

がんばった書き初め会

六年

今年も金賞をとるために、書道教室で練習を重ねてきました。今年も小学校最後の書き初め会です。絶対に金賞をとるぞという思いで取り組みました。本番では、今まで練習してきたことを思い出して、一画一画、丁寧に書きました。始めは、緊張で手がふるえてしまったけれど、納得のいく文字が書けました。しかし、結果は銀賞。悔しかったです。来年は中学校で金賞をとりたいです。

最後の書き初め会

六年

「を」の文字の大きさや形がすごく難しいので、書き初め会に向けて、いっぱい練習をしました。本番までには、「を」が一番自信のある字になりました。四年生から金賞をとっていました。最後も金賞をとれるだろうかというプレッシャーから、最初の文字の「夢」を書くときに手がすぐふるえました。二枚目はきれいに書いてほっとしました。最後の書き初めでも金賞がとれてうれしかったです。中学校でもがんばりたいです。

◆校内書き初め展◆

【二年】

金賞

銀賞

【三年】

金賞

銀賞

【三年】

金賞

銀賞

【四年】

金賞

銀賞

【五年】

金賞

銀賞

【六年一組】

金賞

銀賞

【六年二組】

金賞

銀賞

【硬筆の部】

入選

三年
四年
五年
六年

新年を迎えて

常磐南学区総代会長

昨年は1月1日の能登半島地震に始まり、8月の南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)の発表、9月の能登半島豪雨など数々の災害事象に見舞われた1年であった。

長年災害対策に携わってきたせい、その度に市内で発生した平成20年8月末豪雨での災禍が頭を過ぎった。あの豪雨では、時間雨量146.5mmが観測され、8月としては、気象庁観測史上最大であった。

今でこそ全地域を対象とした避難指示の発令は珍しいことではないが、当時としては極めて希な対応で、災害関連学会や報道機関からの取材が殺到した。ゲリラ豪雨、バックビルディング現象といった言葉が使われた災害でもあった。

「災害は忘れた頃にやってくる」という寺田寅彦の「天災と国防」が語源とされる言葉がある。「ならば、忘れなければ災害は来ない」と言われた方もいるが、そんな訳にはいかない。災害自体を防ぐことはできないが、備えることで被害を最小限にとどめる所謂減災の重要性が唱えられて久しい。

市内17万世帯には、17万通りの備

えと避難方法があると言っても過言でないというのが私の口癖でもあった。新年を迎え「健忘症に對する診療を常々怠らないやう」改めて減災への備えを再確認したい。

(東海愛知新聞 1月1日号掲載)



【R6 地域防災訓練にて】

おめでとう

◆ライオンズ社会見学絵画作品展
優秀賞 三年 五年

お知らせ

【三月】

感謝の会

卒業を祝う会

三学期保護者会(希望制)

卒業証書授与式

修了式



常南の心

親子で過ごす時間
二年担任

先日見たバラエティー番組『チコちゃんに叱られる』(TBS総合テレビジョン)では、わが子と生涯で一緒に過ごす時間について知ることができました。

番組では、これについて、関西大学社会学部教授の保田時男先生が詳しく解説されました。その時間は、母親は約7年6か月、父親は約3年4か月だそうです。さらに、この時間を100%とすると、幼稚園卒園時には32%が過ぎ、小学校卒業時には55%、多くが親元を離れる高校卒業時には73%も過ぎてしまうそうです。小学生のお子さんをもつ保護者の皆さんは、この数字を見てどう思いますか。我が子と一緒にたくさん過ごしたいと思うのは親の総意かもしれません。親からの愛情をたっぷり受け止めている子は、社会性や自立心が育まれるそうです。また、親からの愛情を確信している子どもは、自己肯定感が高まり、何事にも自信をもって取り組むことができるようになるそうです。

番組では、親と一緒に過ごせる残り時間についても取り扱っていました。親と離れて暮らしている人の場合は、一年に親と会う平均日数は6日、一日に親と顔を合わせる時間は平均4時間、つまり一日だそうです。親元を離れて暮らしている方は、この数字を見てどう思いますか。私は幸いにも、実家からそう遠くない場所に住んでいるため、時間のあるときには両親に顔を見せに行きます。スマホで連絡を取り合える時代、わざわざ会わなくても思うときもありますが、実際に会って自分の様子を伝えたり、両親の様子を見たりすることも必要だと思います。親子で過ごす時間を大切にしていきたいです。

28	27	26	25	24	23	20	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土
読み聞かせ(最終)	大掃除	力いっぱい検定		振替休日	天皇誕生日		読み聞かせ	全校遊び			月曜集会 委員会			とぎなん祭(クラブ発表) 第3回評議員会 年度末新旧役員会			建国記念の日	児童集会 クラブ 読書週間21日まで			読み聞かせ 年度末社教役員会		常磐中入学説明会		標準学力テスト クラブ		



★1月29日(水)は、授業研究会のため、一斉下校(14:50)で帰ります。よろしくお願いします。